



ようこそ、157人の新入生

授業で見かけた光景1

4月8日、157人の新入生を迎えました。緊張の中にもやる気に満ちた新入生の凜とした表情に、初々しさと頼もしさを感じました。また、在校生代表挨拶、新入生代表挨拶の素晴らしさにも頼もしさを感じたところです。

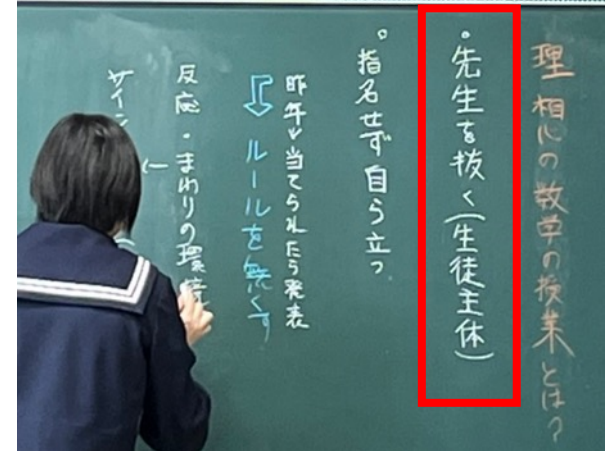
入学式では、校長の思いとして次の2点（概要）を伝えました。

○「可能性は無限大」学校は、皆さんの可能性の幅を狭めることなく、さらに広げていくためにある。中学校時代は、無駄なことが無い、魔法の時間。中学校時代に様々な人やモノと出会い、授業や行事、部活動等で学んだことは、必ずこれからの人生に影響する。一人一人が可能性を伸ばすことができる学校を、先生たちと一緒に作り上げていきましょう。

○「しなやかさ」トラブルや失敗があっても何とか乗り越え、一度折れても元にもどることができる「しなやかさ」。これからの社会を作っていく皆さんに、特に大切な力。

根がしっかりとつながり合い、強くしなやかにまっすぐ伸びていく竹のようにぐんぐん成長する自分の姿をイメージして、目標を立てよう。それが、竹のような節目となる。皆さんのしなやかな成長を私たちが応援します。

今日から、本格的に授業がスタート。校長として、毎日授業の様子を見て回ろうと考えています。授業は学校教育の中心だからです。これから、この通信を利用して授業で見かけた光景を紹介していきます。まず、第1回目は、3年生数学での場面。学級会かなと思ったら数学。生徒が話し合いの司会と記録をして「理想の数学の授業とは」について話し合っていました。



目を引いたのは、「先生を抜く（生徒主体）」。先生に言われた問題だけでなく、それ以外のことでも言われなくても考えていこうという「主体的」な姿勢そのものです。これこそが、始業式で話をした、「自ら考え主体的に行動できる力」だと思い、頼もしい限りでした。発表意見の中には、「他の教科でやった発表のやり方を取り入れよう」というものもありました。学びを他の場面に活かしていく、これも目指す理想的な姿です。たまたま除いた授業でしたが、おそらく、全ての教科でこのような場面が展開されると思います。これからが楽しみです。